

目的 計画 目標（P）

有田市においても交通弱者といわれる高齢者数が増加傾向にあり、市民生活の中で買い物や通院などの交通手段として、利便性に富み、かつ低運賃で乗車できるバスの運行が、必要不可欠なものになっている。

できるだけ交通空白地域の解消を図るとともに安定してサービスを提供し続けることができる採算性が高い交通システムを再構築することにより、高齢者による交通事故をなくし、マイカーなしでも快適に暮らせる地域づくりを目的とする。

【定量的な目標・効果】

- ◆公共交通空白地域を解消する。
- ◆対象地区人口が減少傾向にある状況の中でも、年間輸送人員、運賃収入を前年度並み100%に維持する。
- ◆日常生活に不可欠な交通手段が確保されるとともに、高齢者等の外出が容易になり、社会参加の促進が期待される。

概要図・参考資料

■有田市の概要

【人口】29,730人

【面積】36.89平方キロメートル

【高齢化率】30.9%

【過疎地域等指定】半島振興法の適用
（平成27年12月末現在）

■有田市地域公共交通会議の開催状況

平成26年6月26日開催

- ・生活交通NW計画について承認

平成27年1月26日開催

- ・地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について協議

平成27年6月18日開催

- ・生活交通NW計画について承認



具体的取り組み（D）

■利用促進の実施

- ・昨年度に引き続き時刻表の作成を行い、市内各所に配布し、路線の周知の向上に努めた。
- ・市ホームページ等でも利用促進を呼びかけた。

■アンケート調査の実施

ダイヤ改正後の平成26年7月～平成26年12月にかけて利用者に対してアンケート調査を行い、実態把握に努めた。

取組みに対する評価（C）

■ネットワーク計画に掲げられた目標の達成状況

- ・公共交通空白地域の解消：計画に位置づけられた通り、適切に運行が実施された。
- ・年間輸送人員：対前年度94.2%で、前年度並みに維持できなかった。特にA系統での減少率が大きかった。
- ・高齢者や障がい者の方々の日常生活に不可欠な交通手段としての役割は果たしていると考える。

自己評価から得られた課題、対応（A）

■今後の改善点及び自己評価から得られた課題とその対応

- ・新たな利用者開拓のために利用促進につながるPR方法を充実させたい。
- ・特に減少率の大きかったA系統の利用実態の把握に努めるとともに、より利便性の高い路線や時刻の検討を行いたい。

アピールポイント、特に工夫した点など

- ・地元特産品のキャラクター（紀州レンジャー）を使用した親しみやすい車体のペインティング
- ・高齢者運転免許証返納証明書の提示者には、運賃を半額に割引している。
- ・回数券を販売して、リピーターが増加するように努めている。